価値提供の歴史

エレクトロニクスの進化は、人々の生活を豊かにし、さまざまな 夢を実現してきました。

ムラタは未来を先読みしながら、「よい電子機器はよい電子部品 から、よい電子部品はよい材料から」と愚直に技術を磨き、製品 の進化と市場の拡大に貢献してまいりました。

1960 年代

カラーテレビ放送開始、 東京オリンピックでの好景気で 電子部品の需要拡大

1962年 通信用セラミックフィルタの製品化 1966年 1967~69年

積層セラミックコンデンサの誕生 積層セラミックコンデンサの 量産体制確立

積層セラミック コンデンサ



2010 年代

スマートフォンの多機能化 コミュニケーションのあり方 にも変化

2012年 0201 (0.2×0.125mm) サイズの積層セラミック コンデンサの開発



2016年 世界初

0201サイズインダクタ の開発



2017年 スマートフォン無線回路用 ハイブリッドマルチ プレクサの製品化



∖74,109人

1970-1980 年代

1977年

自動車電話、 ヘッドフォンステレオ、CDの登場 情報のパーソナル化、 ポータブル化の実現に貢献

1975年 マイクロ波用誘電体フィルタ

「ギガフィル」誕生 セラミック発振子

「セラロック」の製品化

1986年頃 チップフェライトビーズの製品化 1989年 多層LCフィルタの製品化





マイクロ波用誘電体フィルタ 「ギガフィル」

2020 年代~

5G時代の到来、 自動車の電装化進展

ますます進む電子機器の多機能化、 それにともなう社会の発展に、 今後もムラタは貢献し続けていきます。

TOPICS

1990年代の携帯電話と2017年の スマホを比較すると、厚みは1/3、体積 は1/2.5、重量は1/2に小さくなり、部品 数は3倍に増えています。部品の小型 化、高機能化、高密度実装を実現する ことで、スマホの軽量化、多機能化、 薄型化の進化を支えてきたムラタ。 積層セラミックコンデンサ、高周波回路 用インダクタなどはその代表的な製品 です。さらにムラタは省スペース化と 多機能化の流れを先読みし、複数の 部品を組み合わせた通信モジュール を開発してきました。



1940 年代

創業 ラジオの民間放送開始などにより 通信機器が普及

1944年 村田製作所創業 1949年 ラジオの温度補償用の チタン酸バリウム磁器コンデンサを

日本で初めて量産



チタン酸バリウム磁器

1950 年代

トランジスタラジオの登場 機器の小型化・軽量化の始まり

1953年

1950年

株式会社村田製作所設立 円板コンデンサの製造開始 1955・56年 村田技術研究所を設立・移転

> セラミック半導体の PTCサーミスタ誕生



PTCサーミスタ「ポジスタ」

1990-2000 年代

パソコンの普及により インターネット時代の到来

携帯電話の小型化、

1997年頃 2000年頃 2004年

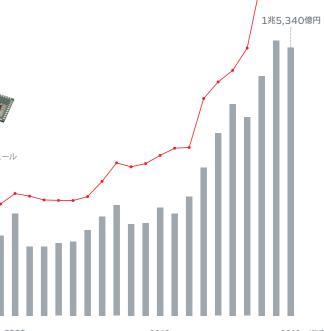
2005年

スイッチプレクサの製品化 Bluetoothモジュールの製品化 0402 (0.4×0.2mm) サイズの 積層セラミックコンデンサの開発

MEMSジャイロセンサの製品化



Bluetoothモジュール





1950 1960 1970 1980 2019 (年度) 1944